

米国原子力空母の交代について

1. 日 時 令和 5 年（2023年）4月28日（金）14：00～14：20
2. 来 訪 者 外務省北米局 局長 こうべ やすひろ 河邊 賢裕 氏
3. 対 応 者 横須賀市長、市長室市長特命参与
4. 来訪の目的 米国原子力空母の交代についての説明のため

5. 面 談 概 要

(1) 外務省からの説明要旨

本日は、空母ロナルド・レーガンの交代について、米側から接受国通報があったところ、その御説明のために伺った。

今般、米側から、横須賀に前方展開している原子力空母「ロナルド・レーガン」が大規模なメンテナンスのために米国へ移動し、代わりに原子力空母「ジョージ・ワシントン」が前方展開する旨の通報があった。

空母「ロナルド・レーガン」は、2024年春を目処に横須賀を出港し、同年夏頃に米国に帰還する予定で、後継艦の空母「ジョージ・ワシントン」は、同年後半に横須賀に入港する予定であると承知している。

より具体的な出港時期及び後継艦の横須賀入港時期は、今後順次決定されていくものと承知しており、米側から情報提供があり次第、貴市を始めとして関係の地元自治体へ適切に情報提供をしていく。

空母「ジョージ・ワシントン」は、空母「ロナルド・レーガン」と同じニミッツ級であり、2008年から2015年まで横須賀に前方展開をしていた空母でもある。

日本政府としては、我が国周辺地域における安全保障状況が厳しさを増す中で、地域において強固な米海軍のプレゼンスが引き続き維持されることは、我が国の安全及び極東の平和と安定の維持に寄与するものであると考えている。

また、原子力空母を含む原子力艦の安全性に関しては、先般、コールドウェル米海軍原子炉管理局長が林外務大臣を表敬した際に、原子力艦の運用に当たっては、これまで米国政府が表明してきたコミットメントのとおり、今後も変わらず高い水準の安全性を確保していく旨改めて表明があったところである。こうした点にも鑑み、政府としては、原子力防災上の懸念は無いと認識している。

これらのことから、空母「ロナルド・レーガン」に代わり、空母「ジョージ・ワシントン」が横須賀に前方展開することについて、上地市長、また横須賀市民の皆様のご理解を賜りたく存じる。

なお、空母交代後も、引き続き第5空母航空団が前方展開されると承知しているが、それ以上の詳細については、引き続き米側で調整中であると承知している。

また、米側によれば、空母交代による地元の負担に関しては、現時点では、追加的な工事を含め、大きな変更は無い見込みとのこと。

他方で、政府としては、地元の負担軽減は重要な課題であると認識しており、引き続き米側と緊密に連携の上、貴市をはじめとした関係の地元自治体へ適切に情報提供をしまいる。

(2) 上地市長の発言要旨

現在の厳しい安全保障環境において、日本の平和と安全、そして、地域の安定のためには米海軍のプレゼンスが引き続き維持されることは、非常に重要なことであることは理解する。

他方、燃料交換や大規模修繕工事を終えた空母が横須賀に前方展開されることは初めてのことであり、米側には原子力艦の運用にあたり、高い水準の安全性の確保と、これまでの原子力艦の安全性に関するコミットメントを遵守するよう、日本政府として求めている。

また、市民にきちんと説明することが、私の責務であるため、今回の交代に関して何点か確認をさせていただく。

(3) 確認事項

市長から、以下の事項についてそれぞれ確認した。

米側から通報があったのはいつだったのか。

(北米局長)

昨日(4月27日)、在京米国大使館及び在日米軍から外務省に対して本件に関する接受国通報を受けた。

空母が交代する理由はなにか。

(北米局長)

米軍では、艦船の整備状況を万全にする趣旨から、海外に前方展開する艦船については、その期間を10年までとするべきと定められていること等に鑑み、今般の決定がなされたものと認識している。

空母交代のスケジュールはどのようになっているか。

(北米局長)

空母「ロナルド・レーガン」は、2024年春を目処に横須賀を出港し、同年夏頃に米国に帰還する予定であると承知している。後継艦の空母「ジョージ・ワシントン」は、同年後半に横須賀に入港する予定であると承知している。

より具体的な出港時期及び後継艦の横須賀入港時期は、今後順次決定されていくものと承知しており、米側から情報提供があり次第、改めて横須賀市を含む地元自治体へ適切に情報提供をしていく。

乗組員やその家族の移動スケジュールはどのようになっているのか。

(北米局長)

乗組員やその家族の配属や移動にかかる事項は現在米側で調整中であると承知しており、追加的な情報が得られ次第、貴市を含む関係自治体へ情報提供をしていく。

なぜ、今の時期の発表なのか。

(北米局長)

政府としては、米軍の運用に支障の無い、しかし可能な限り前広なタイミングで通報と発表が行われたものと認識している。

(横須賀市長)

原子力空母に限らず、米軍の運用に支障にならない範囲内で、可能な限り速やかな情報提供を今後もお願いしたい。

(北米局長)

引き続き関係省庁及び米側と連携の上、適切に貴市及び関係地元自治体への情報提供を行えるよう、尽力してまいります。

大規模修繕工事（RCOH）をした艦船が前方展開するのは初めてのことだが、現在のジョージ・ワシントンの整備状況はいかがか。

(北米局長)

空母「ジョージ・ワシントン」は、2017年から米本国で燃料の交換や大規模な装備の更新工事（RCOH）を実施しており、2023年に同工事が完了する見通しであると承知している。

推進機関の変更はないのか。

(北米局長)

推進機関について変更は無いとの説明を受けている。

なお、先ほどご説明したとおり、政府としては、今般の空母の交代にあたっては原子力防災上の懸念は引き続き無いと認識しているが、いずれにせよ、米原子力艦の本邦への前方展開や寄港にあたっては、原子力防災上の安全が担保されるべきことは言うまでもない。その観点から、年次の合同訓練の実施をはじめとした貴市長の日頃からのご尽力に感謝申し上げます。

今後とも関係者間で緊密に連携していきたく、引き続き貴市のご協力を賜れば幸いです。

(横須賀市長)

一部の報道によると、ジョージ・ワシントンに無人航空機が搭載される
とのことだが、事実関係について確認させいただきたい。また、艦載機変
更の予定はあるのか、併せて確認させていただきたい。

(北米局長)

空母交代後も、引き続き第5空母航空団が前方展開されると承知してい
るが、航空団に配属となる艦載機の種類が変更されるか否かを含め、それ
以上の詳細については、引き続き米側で調整中とのことである。

(横須賀市長)

承知した。横須賀に新たに赴任する、ジョージ・ワシントンの乗組員や
家族の方達には、横須賀を第2の故郷だと思っていただきたいと考えている。

繰り返しになるが、燃料交換や大規模修繕工事を終えた空母が横須賀に
前方展開されることは初めてのことである。米側には原子力艦の運用にあ
たり、高い水準の安全性の確保と、これまでの原子力艦の安全性に関する
コミットメントを遵守するよう、日本政府として求めている。

今後とも、こうした速やかで丁寧な情報提供をお願いしたい。

本日はありがとうございました。

以上